

過去を未来へ伝えていく使命

洲 浜 昌 三

山内さんが発行されたタブロイド版の「未来に語るふる里民話」など数枚がぼくの手元にあります。作者の感動や思いが溢れた濃密で独特な文章が、ぎっしり紙面に埋まっています。その後も継続的に発行され、拝読しました。

お会した時には、生き生きと、松の話しや石見銀山、調査中の家系こと、出会った資料などの話をされ、ぼくも興味深く耳を傾けました。一つのことを、こんなに熱心に調べ、行動し、さらに活字にして発行する人がこの大田におられることが不思議に思えました。

最近では、隣り近所でも、何をしている人かも分からないのが普通です。ましてや別の町に住み、分野が違えば、親しく話す機会などありません。

不思議な出会いです。昭和六十三年、四人の子供も大きくなり平屋も手狭になったので増築しました。フスマを山内建具店へお願いしました。山内さんは裏手の戸口の横に掛けてあった「照葉樹林のふもと」という小さな詩の額縁を見られたようです。普通、そこに目をやる人はいませんし、見ても気に留めません。ところが山内さんは、その額の詩に気が付き、「この人なら読んでもらえるかも」と、行動を

起こし、後日発行された民話の印刷物を持って来られたのです。

心が純粹で興味関心の感度が高い人には、見えないものが見え、聞こえない声が聞こえ、思わぬ「出会い」があります。出会いがあっても、行動が伴わない人は（ぼくの如く）、いつも宝を逃がしてしまいましたが、山内さんはすぐ行動されます。その行動がさらに「いい出会い」を生みます。セレンディピティという言葉がありますが、何かを真剣に探していると偶然から別の新しい発見をすることがあるのです。

今回の本は、タブロイド判で発行されたものを、ほぼそのままに近い形で本にされたものです。そのために重複や未整理な点もあります。山内さんの文章は、話し言葉の口調が顔を出します。相手が目の前にいる話し言葉では、助詞や述語や接続詞を省略したり、一つの文で主語が入れ替わったり、強調のために言葉を繰り返したり、文や語句を句読点なしで並列したりすることは普通のことです。しかし、それを文章にすると分かりにくくなります。この本では、できるだけ山内さんの書き方を尊重する方針だとか。話し言葉には躍動感や臨場感がありますので、それは一つの個性的な魅力といえるでしょう。

この本には、六篇の民話的な（山内さんの言葉）断があります。松に出会って感動し、千人壺にある辞世の句に出会って人生を考え、雲のように空想が湧き上がり、さらに辛づる式に連想が広がり、言葉や数字のゴロ合わせ（雷とは神鳴り、等々）や読み替え、意味の差し

替え、言葉遊び、連想などを多用して、少しユーモアも交えて書かれ、処世訓に満ちています。いろいろな題材や話題が出てきて、民話や随筆、記録、感想、教訓などの文章が、やや未整理に顔を出し、起承転結をあまり意識せず書かれているので、「創作民話」としては、まだ素材提供の観がありますが、山内さんも書いておられるように、「民話は民衆から生まれ、事柄の物語に空想的な、そして遊び心を加え、伝承され完成される話」ですから、「何百年も語り継がれ立派な民話」になることを期待したいものです。

著者の山内さんは、特に「松」に深い思い入れがあり、新聞で旧大森代官所の老松が、松くい虫で枯れた記事を目にとると、すぐ出かけて行き、枯れた老松の枝に二世の松が育っているのを目にし、松の叫び声を聞きます。それは、「私がここまで育ってきた苦難の歴史を知ってください。そして跡継ぎの松を大切に育ててください」という遺言のように聞こえるのです。それまで、絵心はなかったのに、すぐスケッチし、松の過去を調べ始めます。その後、あちこちの名松や風物などを、衝立や欄間額、掛軸、襖絵、屏風などに墨で数百点描き、三十数点は神社や寺、公共施設などに奉納されました。老松や風物は時代と共に消え去っても、「ろうほう作の絵」として残り、語り継がれていくのです。芸術文学の力です。

二十三歳で建具職人として独立、仕事一筋で本も読まなかった、という山内さんが、何故、「六十五歳から見えない世界、歴史、哲学、

雑学に興味を持つようになり」、絵を描き本を読み文章を書くようになったのか。本書から動機に関わる文章を引用してみます。

「年をとる、歳を貰う、貰った物はこの世でお返し、恩返し。身につけた恵み、知識、この世でいただいた数々のお返しの時期」

「子孫への贈り物にお金でもない物でもない、人間として大切な心構えを書き残して伝えたいのです。私が生命を終えても遺伝子は次の時代に伝わっていきます。私達は永遠の命の繋がりの中の一員として、過去から聞いた事も未来へ伝えることが使命であります」

善意で、人の道を一筋に生きてきた人の、感銘深い言葉です。

（劇研「空」代表 日本詩人クラブ 日本劇作家協会会員）

④ 本の文章は一段が書きですが、ここでは二段書きにしています。